協力 広島県　発行元 アクセス プログラス

広島県の小学生の皆さんへ

広島県知事
湯﨑英彦

皆さんこんにちは。広島県知事の湯﨑英彦です。

最近、日本のいろんな地域で大雨や地震などの自然災害による被害が増えています。広島県もいつ大きな地震や台風に襲われるか分かりません。いざという時のための準備を日頃からしっかりとしておくことが一番大切です。皆さんの学校やおうちではどんな準備をしていますか?どんな準備をしておく必要があるか知っていますか?日頃からしっかり備えておくことで自然災害による被害を小さくすることができます。

この「もしも新聞」をおうちの方と一緒に読んでみましょう。そして、災害に備えるための作戦会議を開いて、災害から命を守るためにはどのような備えが必要なのか、どこに避難するのか、家族で考え話し合いましょう。

広島県では、「災害に強い広島県」の実現を目指し、県民が一体となって「『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」に取り組んでいます。災害が起こった時、少しでも被害を少なくするために、日頃からしっかりと学び、備え、「自分の命は自分で守る」という意識をしっかりと持ち、命を守るための適切な行動がとれるようにしましょう。そして、困っている人がいたらみんなで声を掛け合って助け合いましょう。

この「もしも新聞」が、いつ起こるか分からない自然災害から、自分の命、そして広島のみんなを守るため、災害について考える第一歩になればと思います。

危機管理啓発媒体“もしも新聞”の発行に賛同いただいている企業・学校

60年のクオリティとプライド
平和で持続可能な社会の実現にむけて

60th Anniversary 創立60周年を迎えました

60 絆 KO DOMO

城北だからこそできる教育

Discovery
Sience(科学),Technology(技術),Engineering(工学),Art(芸術),Mathematics(数学)との出会いを英語で表現する体験型探求プログラムです。

FLIP
「プログラミング」や「SDGs」の視点から社会課題の解決をめざし、次世代を生きる子どもたちに求められるリーダーシップを育む学習プログラムです。

ICT
「情報活用能力」「創造力」を育てるとともに、時代が求める新しい学びを実現するために、10年前からICTを積極的に活用しています。

10/9(土) 中学校 入試説明会

11/14(日) 医学科進学コース 入試説明会

学校法人 広島城北学園
広島城北中・高等学校

Saturday Open School
11月まで開催しています

◎詳しくはホームページで
広島城北学園 検索

編集部から小学生の皆さんへ

「もしも新聞」を読んでみた感想はどうでしたか?何かためなる情報はありましたか?いつ起こるかわからない地震や災害に備える「防災」は、決して大人だけの問題ではありません。小学生の皆さんにも、できることはたくさんあります。まずは身近にある色んな災害や危険について、知ることからはじめましょう。

もしも新聞【2021年9月号】
◎協力：広島県　◎発行元：株式会社アクセスプログラス
◎エグゼクティブ・マネジャー：株式会社UX-HATCH〔山本博行〕
◎デザイン：MOSH.inc〔池尻元輝 / 大久保薫真〕　◎コピーライティング：青組〔光延具視〕
◎表紙イラスト：有限会社ピース〔愛須慎太郎〕　◎中面イラスト：竹島 洋子
◎撮影：U-Concent〔香川裕貴〕　◎印刷：株式会社高速オフセット
お問い合わせ もしも新聞 編集部 〔TEL〕06-6360-7460 〔MAIL〕moshimoshinbun@access-t.co.jp

SIAA ISO 22196 抗菌加工
この媒体は高速オフセットの「輪転抗菌印刷」を採用しています

特集 身近なもしもを学ぼう

まずは災害を知ることからはじめよう！

たとえば地震も、台風も、洪水も、ウイルスも、災害とは私たちが予想もできないタイミングで突然起きるもの。そしてどの災害も、広島の町で暮らしているみんなにとって、実はとても身近なものばかり。まずは自分の身の回りに、どんな災害があるのかを知ることからはじめてみよう。

ウイルス

毎年のように流行するインフルエンザや、今も、世界中で感染が広がりつづける新型コロナウイルスも災害のひとつとも言えます。でも、地震や台風などの自然災害と違うところは、自分たちで予防ができるということ。3密を避ける、手洗いやうがいをこまめにするなど、「新しい生活様式」に習って、日頃からできることに一人ひとりがしっかり取り組み、みんなの力でウイルスに感染するリスクを少しでも減らしましょう。

台風

毎年約4個の台風が中国地方に接近！

夏から秋にかけては大きな台風が上陸することがあります。2006年には沖縄県で最大瞬間風速69.9m、広島県でも最大瞬間風速34.9mを観測した台風13号の影響で、広島県内で500軒以上の住宅が浸水、家が破損するなどの大きな被害をもたらしました。毎年日本に接近する台風の数はおよそ13個。そのうち4つぐらいは、広島県を含む中国地方に接近しています。

地震

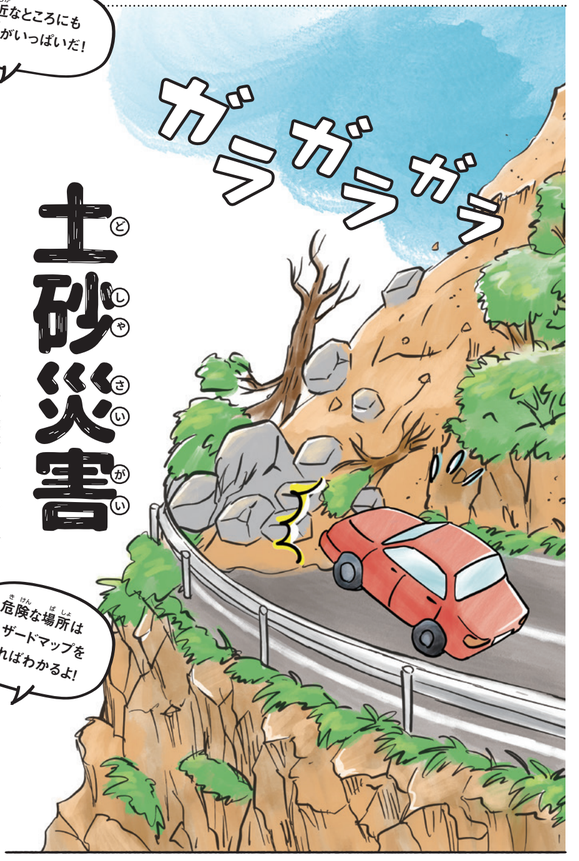
巨大地震の発生確率は70％以上！

広いというイメージがありますが、今後30年以内に70～80％の確率で発生すると言われている「南海トラフ巨大地震」では、最大震度6強にもなると想定されています。この「南海トラフ巨大地震」によって約7万軒の住宅が被害に遭い、約59万人が避難者になるとも言われています。地震はいつ起こるか分かりません。家具の固定や防災訓練への参加など、日頃から準備しておくことがとても大切です。

土砂災害

ガラガラガラ

台風や大雨が降った時は、土砂災害にも注意が必要です。傾斜が急な山の近くなどでは、がけ崩れや土石流、地すべりなどの土砂災害が発生する可能性があります。広島県では土砂災害が発生するおそれがある箇所が約4万8,000箇所もあり、全国1位の多さです（令和2年3月26日時点）。みんなも自分の家は安全なエリアなのか、ハザードマップや広島県の「土砂災害ポータルひろしま」で事前にチェックしておくようにしましょう。



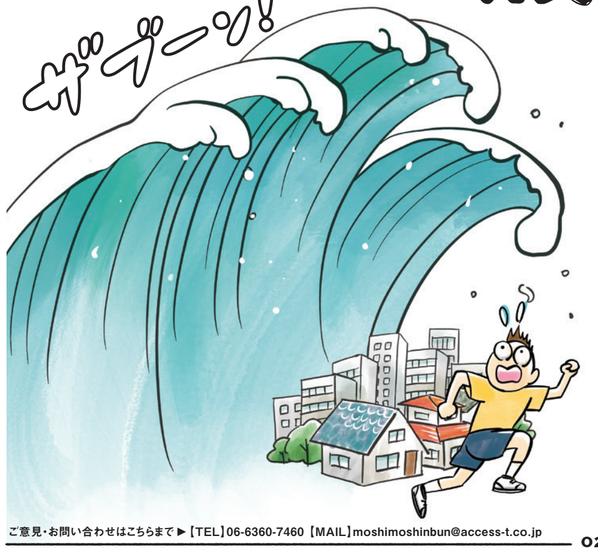
洪水

広島県は、平野が少なく、県の約7割が山地。大きな川や小さな川も多く流れています。そんないつもは綺麗で穏やかな川も、大雨が降るととたんに水量が増えて、時には溢れ出ることもあります。この洪水による被害もまた気をつけるべき災害です。川から距離が離れているから安全とは限りません。洪水が起きた時、自分の家は安全なエリアなのか。ハザードマップや広島県の「洪水ポータルひろしま」を一度チェックしてみてください。

津波

津波の速度は100m走の世界記録並み！

もしも海溝型の大きな地震が発生した場合、揺れと同時に気をつけなければいけないのが、津波による被害。たとえば「南海トラフ巨大地震」が起きた場合、広島県では、約15,000軒が津波の被害を受けると想定されています。また、地震の発生から約10分～約3時間半で、高さが最高で1.9メートルを越える津波が広島県内に到達するとも言われています。海に近い町に住んでいる人は特に注意。高台へ避難するなど、できるだけ素早く避難する行動を心がけましょう。



20XX年 ウソ？ホント？ 広島に大地震が発生！するかも?!

日本は世界でも有数な地震大国。みんなが住んでいる広島も、いつ大きな地震が起きてもおかしくないんだ。2001年に発生した「芸予地震」では、大きな揺れで多くの被害が出たことが記録されているよ。20XX年、近い未来に起きるかもしれない大地震に備えて、今からしっかり勉強しておこう！

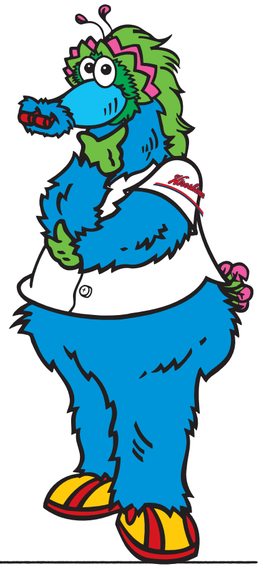
2001年、広島を襲った大地震

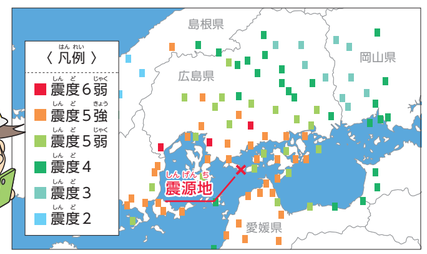
芸予地震

みんなが生まれる少し前のこと。2001年3月24日15時28分、安芸灘を震源とするマグニチュード6.7の地震が発生した。「芸予地震」だ。中でも揺れの大きかった熊野町、大野町（現：廿日市市）、河内町（現：東広島市）、大崎町（現：大崎上島町）では震度6弱を観測。呉市を中心に広島県南部では震度5強から震度5弱の強い地震だった。

大きな揺れの影響で、住宅被害が多数発生。全壊は40戸、半壊は242戸、一部損壊はなんと28,240戸も。家を失ったり、家の一部が壊れたり、中には亡くなった人や大けがをした人も。土砂崩れや地面のひび割れなど、広島県内のいろいろな場所でたくさんの被害があったんだ。

たくさんの家が壊れるなど、各地で被害が発生!!

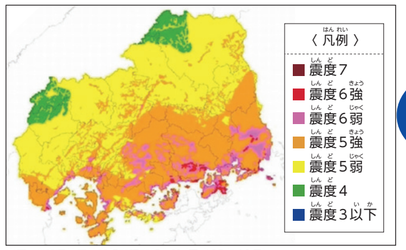




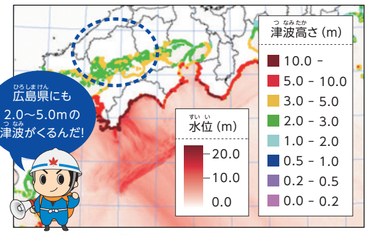
出展：芸予地震に係る民間宅地擁壁復旧事業の記録（広島県）

発生確率は70%以上！

南海トラフ巨大地震に注意！



出展：広島県地震被害想定調査報告書（平成25年10月）



「南海トラフの巨大地震モデル検討会」（内閣府）
（http://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/model/15/index.html）を加工して作成

今後、みんながもっとも気をつけるべき地震が、この先30年以内に70～80%の確率で発生すると言われている「南海トラフ巨大地震」だ。マグニチュードは9.0、発生した場合に予想される広島での最大震度は震度6以上。「芸予地震」と同レベルの大きな揺れが想定されているんだ。

大きな揺れのあとは、津波の危険も！

広島の海岸部に到達する津波の高さは、最高でなんと1.9メートルにも。みんなの背よりも高い波が襲ってくる可能性があるんだ。早いところでは、地震発生から約10分後には津波の影響が出ることもあるので、すばやく高い場所に避難することが重要だよ。

もしも地震が起きたら・・・

さあ、あなたはどうする?

大きな地震が発生した場合は、その場の状況を正しく判断して、避難行動をすることで、被害を最小限におさえることができます。

もしも地震が起きた場合をイメージして、そのときに自分がとるべき行動を確認してみよう。

地震発生

揺れを感じたとき
身の安全を最優先に行動する

揺れがおさまったら
慌てずに火の始末・出口を確保しておく
ガラスなどを踏んで怪我をしないために靴を履く

現在の状況を確認

正しい情報を得る
デマにまどわされないよう、ラジオやテレビ、消防署や行政のサイトで正しい情報を入手します。
停電時には電池式や充電式のラジオが便利です。

火災の危険性や、海や川の近くにいることで津波の危険性はありますか？

はい / いいえ

家の被害はありますか？（これから被害が出る可能性も含む。）

はい / いいえ

食料・飲料水・トイレなど十分な備えはありますか？

いいえ / はい

危険がおさまるまで一時的に待つ場所
避難場所に避難しましょう
避難場所は、地震や津波などの災害から一時的に避難する場所で、各市町が指定しています。ホームページなどで事前に確認しておきましょう。

一定の期間 避難生活をする場所
避難所に避難しましょう
避難所は、災害時に自宅が全壊・半壊した場合や、電気・水・ガス等が使用できない場合に、一定期間生活するための場所で、各市町が指定しています。ホームページなどで事前に確認しておきましょう。

あえて避難所に行かないで家で避難
在宅避難をしましょう
自宅以外の会社や学校で安全が確認された場合は、無理に帰宅せず、その場にとどまり様子を見ましょう。

【 避難するとき 】
ブレーカーを落とす / ガスの元栓を閉める

【 家に戻るとき 】
ライフラインの代替品を備える
排水設備の破損がないか確認